



日本生まれのラケットスポーツ  
“ソフトテニス”で  
過疎化した村が生まれ変わる!?

ローティーンの

女の子の微妙な心の揺れや

高揚を繊細に描き出す。

「どこかに忘れていませんか？」

あのころのときめきを」

INTRODUCTION

きらきらとした海と山と田んぼと案山子。夏の日本の島で撮影された今作は、“ソフトテニス”というラケットスポーツの魅力が詰まった、世界初の競技映画だ。しかし、ただのスポーツ映画でなく、エンターテインメントとして昇華させたのは、これまで北川景子(『チェリーパイ』/2006年)や内山理名(『遠く空』/2010年)、池脇千鶴・市川由衣(『音符と昆布』/2008年)ら、今をときめく女優たちの主演映画をてがけてきた井上春生。今作も主演は女優で、初主演の平祐奈と大友花恋のふたり。脇を固めるのは、関めぐみ、小市慢太郎、久保田磨希、佐藤正宏、駿河太郎、斉木しげる、草村礼子といった個性的かつ実力派の豪華俳優陣。また、役者として主役の2人を支えながら、ソフトテニス競技経験のある星田英利と柳葉敏郎は、劇中でその実力の片鱗をみせている。美しい田園風景を背景に、ソフトテニスにまつわる魅力がいっぱいに詰まった“カカラケ”の全国公開は、来春4月4日(土)から。

ふたりの少女が島で巻き起こす、  
ピュアでハートフルな  
“ソフトテニス”青春ラプソディ。

島で生きる人々の姿を描いた  
爽やかな汗と涙と友情あふれる  
成長と再生の物語。

STORY

東京から転校してきた小田切亜季(平祐奈)と地元の島で育った松丘珠子(大友花恋)は、共に中学3年生。亜季は東京の母と姉から離れ、別居中の父・雅也(小市慢太郎)の元へとやってきた。亜季は、東京で所属していたソフトテニス部で心に傷を負っていた。そんな亜季に、珠子はソフトテニスを教えてほしい、と持ちかける。珠子の熱意に押され、近所の廃校となった荒れた校庭を使い2人で練習を始める。

その矢先、村役場が廃校を売りに出すという噂を、村の“仙人”こと八重婆(草村礼子)が聞きつけ、八重は村長(斉木しげる)に直談判し、計画を阻止しようとする。

一方で、役場の臨時職員の青木(星田英利)は東京で挫折して戻ったUターン組。悶々と過ごすなか、偶然見かけた亜季と珠子のボールを追いかける懸命な姿に打たれ、亜季に呼ばれてわざわざ島まで来た姉・美里(関めぐみ)と2人でコーチ役を買って出る。

そんな周囲の大人たちの支えのなかで、初試合に臨んだ“亜季・珠”ペアだったが、結果は惨敗。亜季の父・雅也の友人であり、ソフトテニス実業団&高校チームで監督を務める西園寺馨(柳葉敏郎)が、失意の二人にアドバイスを送る。

西園寺の言葉を胸に、強くなりたいという思いを練習にぶつけた亜季と珠子は、中学最後の試合に臨んだ――。

